

9月1日(土) 13時～16時30分

象徴天皇制を撃つ

——天皇制翼賛体制との対決

講師＝山下勇男 (社会主義理論研究)

会場：本郷文化フォーラムホール

参加費：1500円 (学生1000円)

講座名変更のことわり

明仁の「退位」表明から丸2年がたった。この間に、明仁が発意し政治を動かすことによって「退位」に関する特例法が成立した。憲法上こんなことが許されるはずがない。リベラル派が明仁の選択と決断に同調し、一部の右翼言論人が明仁の「違憲」行為を批判するという、“左”右のねじれが生じた。これはいったいなんなのか。

巷の声を拾うTV報道にこんな台詞があった、「長い間お疲れ様でした。ゆっくりお休みください」。彼女は何をいったい考えていたのか。いや、さして考えてはいなかったに違いない。

例の「お言葉」から“人間”明仁の心の叫びを聞き取り、共感したりしたすべての人びとに問いたい。天皇制は非人間的な制度そのものではないのかと。天皇は「国民」を超越した特権を与えられながら、その代償として、基本的人権を剥奪された存在なのだ。ましてや、生まれながらにして特定個人の一生が決まってしまうような人生を強

制することの、いかに残酷なことか。天皇は、そういう存在として、「国民」の差別的分断・支配の頂点に君臨してきたのである。

今回の講座は、当初「天皇代替り儀礼の違憲性——『前例』踏襲で覆い隠される歴史の真実」として企画した。講師である山下の一存でこれを表記のように変更させてもらうことにした。わたしは天皇の「代替り儀礼」についての批判的考察を、2018年1月1・15日号から7月1日号まで『思想運動』紙に断続的に連載してきたが、「代替り」という枠組みを設定すると、中心テーマをどうしても違憲性の有無に絞らざるをえなくなる。それはそれとして意味がないことではないが、原点に立ち返って、より根本的な問題に目を向けるべきだと考えるに至ったからである。

(山下勇男)

〈講座の会場です〉

〒113-0033

東京都文京区本郷3-29-10 飯島ビル1階 小川町企画内

本郷文化フォーラム・ワーカーズスクール (HOWS)

電話：03-5804-1656 FAX：03-5804-1609

E-mail：hows@dream.ocn.ne.jp

